

# 令和5年度事業報告

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

第3次地域福祉推進計画 福祉目標（令和5年4月～令和10年3月）

自分らしく 安心して暮らす 共生の地域づくり

基本方針1 誰もが『認め合う』安心な地域づくり

活動目標

1. 互いが尊重される地域づくり
2. 参加しやすい・参加したくなる多様な場づくり
3. SOSが出しやすい地域づくり

基本方針3 SOSをまるごと受け止め、支える体制づくり

活動目標

1. まるごと受け止めみんなで支えるチームづくり  
（包括的相談支援体制の推進）
2. 権利擁護支援体制の促進

基本方針2 多様な力がつながり、協働する仕組みづくり

活動目標

1. 多様な力と共感が交わるきっかけづくり
2. 力の循環を促進する「拠点と人」づくりの推進
3. つながりで築くケアの推進

基本方針4 地域福祉を進める基盤づくり

活動目標

1. 社会福祉協議会の機能強化
2. 計画推進の仕組みづくり
3. 住民主体の活動圏域の形成

# 基本方針1 誰もが『認め合う』安心な地域づくり

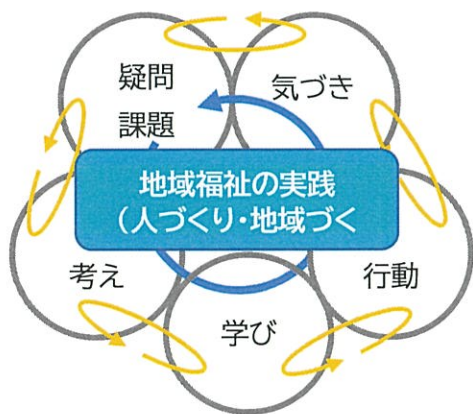
## 1. 互いが尊重される地域づくり

### お互いの理解を深める取り組みの推進

#### 事業計画 1

「自分らしく暮らす」の実現とともに、誰もが多様性を認め合い、地域の一員として大切にしがえる「共生社会」の実現へ向けて、「循環型福祉学習」や「当事者活動の推進」を進めます。

- ◆ まちのバリアフリー点検プログラムの企画・実施の支援
- ◆ 当事者と考える福祉学習プログラムの提案・実施の支援



#### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

##### ○子どもを対象とした“チャレンジ大学”

（ふらっとチャレンジを名称変更）をはじめ、障害当事者が講師となる講座の開催や交流など、人との出会いで学び・気づきを促す機会の創出に努めました。参加した子どもたちは、「教わる」から主体的に「学ぶ」姿勢へと変化が見られました。

△より主体的な人づくりにつながるプログラム提案を進めていますが、主に学校で取り組まれる福祉学習においては、学校内の担当者の交代による引き継ぎ等の事情から、内容に偏りが生じるなど、学校環境により学びの内容に差が生じています。

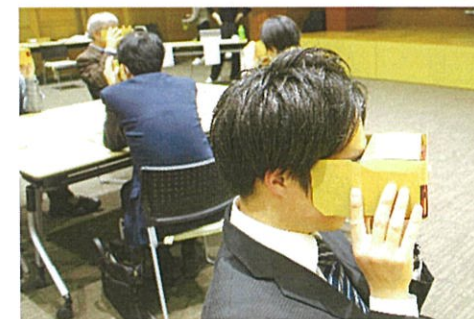
#### (2) 次年度に向けて

三田市社協と関西学院大学、兵庫中央病院などが協力し作成に至った新たな認知症VRをはじめ、当事者講師から学ぶ体験交流学習など、新たな手法となる福祉学習の広報とともに、イベントなどを通じ、体験の場を設けるなど、関心に触れる機会を設けていきます。また、提供するプログラムが利用するひとに共通して理解できるよう構成を工夫します。

#### ▼互いの「あたりまえの暮らし」を知り合うことから



#### ▼教員・専門職が学ぶ福祉学習 (子ども向け認知症VR体験)



## 2. 参加しやすい・参加したくなる 多様な場づくり

### 多様な人がつどう身近な場づくりの推進

#### 事業計画2

日常の中での困りごとについて SOS を発信することや、まわりが早期に気づくことができる環境や機会が確保されることで、安心と自己肯定感が育まれ、自分らしい暮らしができるよう、「サロン・居場所など多様で身近な場づくりの推進」や「地域活動・ボランティア活動の促進」を行います。

- ◆ 共生の居場所づくりの推進  
(シニア・ユースひろば)

事業で見た  
ニーズを反映し  
展開することで  
推進力を高める

### 地域福祉活動・ボランティア活動の促進(基本方針1)

#### & つながりで築くケアの推進(基本方針2)

ニーズの多様化や担い手の不足などに対して、一般的に地域福祉活動やボランティア活動を広く啓発するだけでなく、想いと力を結び、日常の活動につながるよう、時代や世代に応じた活動者育成やつながりづくりを進めます。

#### 【関連実施事業】

- ★べあちる運営支援ボランティア 12名
- ★当事者支援ボランティア×子育てサポートの強化  
「ひとり親家庭の現状と支援」講座の開催 14名
- ★さっちゃんのまごころお福分けネットワーク  
パッキングボランティア 56名

### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

○コロナ禍で低迷した「つどい場・サロン」などの活動は、感染法上の制限が解除された後、コロナ禍以前よりも活性化し、回数が増加、取り組み方法も多様化しました。なかでも、「近所に同じ世代がいない」「前に行ってた場所がなくなり、行く場所がない」などの声を受けて、子育て世代と高齢者が一緒に参加できる場や不登校・引きこもりの方が役割を担える機能をもつ居場所、認知症の当事者やその家族が集える場などが増えてきました。

△世代を問わず単身世帯化や社会からの孤立が大きな課題となっている中、高齢者に限らず多様な人がつながることができる「居場所」が重要ですが、数は足りていません。また、人口減少や就労延長などにより地域活動の担い手が不足することに伴い、居場所の運営が困難になりつつあります。そのためニーズと活動者数のアンバランスな状況が生まれています。

そのため、新たに作るだけでなく、既存の活動同士が合わさったり、見直すなどの柔軟さが必要になっています。また、支援者側の数を増やす目線ではなく参加と担い手の概念に捕らわれない視点で「共につくる」「ともに運営する」考え方が重要です。

### (2) 次年度に向けて

居心地良い場づくりとその運営の継続に向けて、参加者自身が自らの居心地よい空間づくりに主体的に関わる働きかけを行います。さらに、多様な世代の参加や団体間の協働を進めることで、負担の軽減だけでなく、一人ひとりを見る視点を増やすことへとつながり、地域の中で SOS を出せ、気づける地域のネットワークづくりを目指します。

また、合わせて社協に寄せられる一般的に見えづらい声をしっかりと受け止め「SOS」として地域へ届け、共感による新たな活動者育成へとつなげていきます。

### 3. SOSが出しやすい地域づくり

#### 孤立予防に向けた場づくりの支援・情報発信

生きづらさを抱えている方が身近な地域などで、自分が困っていることに「SOSを出すことができる」、そのSOSが「受け止められる」地域づくりを進めます。

- ◆ つどいの場の立ち上げ、活動支援
- ◆ 当事者の生活に役立つ情報の発行（さんだ社協だより、SNS など）



#### ★実施事業例：

「地域活動者研修会Ⅱ地域を支える“つながる場”～知る・語る・やってみる～」

参加者44名

#### 事業計画3

#### （1）成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

○コロナ禍の経験を踏まえ、高齢者だけでなくあらゆる世代にとって「孤立しない・人との交流・つながり」が健康と暮らしの豊かさにつながることへの気づきが生まれました。それにより、新たなサロンや子ども食堂が立ち上がったり、世代を問わず孤立予防を意識した支え合いの活動の見直しがされ、対象を広げるなどの地域もできました。

△三田市における高齢化は著しく、つどい場や生活支援などの「支え」に対する需要は強くなりますが、それと同時に人口減少と高齢化による担い手不足が大きな課題となっています。地域活動の担い手や支え合いの中心を高齢者に限るのではなく、多様な世代が参加できるような仕組みへの転換、参加に向けた意識啓発、広報などの取り組みが必要です。

#### （2）次年度に向けて

社協だよりやSNSを通じ、多様な参加と運営の形などを発信し、また研修会や交流を通じて、協働や新たな取り組み方法の実践へとつながる機会づくりを進めます。

## (1)互いが尊重される地域づくり

### 【強化】ともいき三田の開催

地域における「共生社会」の実現が促進されることを目指し「支え手」「受け手」を超え、共に地域福祉を推進する活動者としての「出会い」と「きずな」づくりを目的として、文化やスポーツなど多様なイベントでの力合わせを通じた相互・循環型福祉学習の機会として「ともいき三田」を開催しています。今年度はさらに多くの方が関心を広げ、地域社会の「ノーバリア（心のバリアを外す）」へのきっかけとすべく、三田市モルック協会や三田市ラグビーフットボール協会と協働開催しました。



### 【新規】権利擁護サポーターの養成

推進計画策定と並行して、令和4年度に当事者本人とともに伴走支援を担う人材として権利擁護サポーター養成講座を開催しました。今年度は、本格的な活動開始に向けた学びの場を開催しています。（4回開催 延べ34名参加 登録者数9名 \*令和6年3月末現在）



### 【新規】おとなのひきこもり状態にある方の家族のつながりづくり



孤立しがちなひきこもり当事者の家族が思いを共有するなど、社会とつながるきっかけづくりを目的として、おとなのひきこもり当事者家族を対象としたつどいの場『おとなのひきこもり 家族のつどい「らくに」』を開催しました。（3回開催 延べ12名参加 \*3月はゲストスピーカー参加）

## (2)参加しやすい・参加したくなる 多様な場づくり

【新規】社協高齢者デイサービス利用者の社会とのつながりづくりを推進

デイサービス利用者が、家族や職員だけでなく、他者との交流の機会を多く持てるようにボランティアグループや個人ボランティアの受け入れを行っています。ボランティアの方々には活躍できる活動の場として、利用者にはボランティアの方々と出会い交流することによる社会とのつながりづくりの機会になるように取り組んでいます。

高齢者デイサービスのみならず、障害者デイサービスにおいてもボランティアの受け入れを行っています。ボランティアの方々が来られた際には、それぞれのデイサービス利用者が行き来し、より多くの人同士が交流できるようにつながりづくりを推進しています。

今後は、より身近な地域住民にも参加してもらえるような取り組みを進めていきます。



【強化】サロン・居場所など多様で身近な場づくりの推進～ペあちるの開催～



地域福祉活動・ボランティア活動の促進～当事者支援ボランティアの育成～

ひとり親家庭の子ども・保護者を対象に、同じひとり親同士の親子で交流し情報交換することで繋がりを深めるとともに、支援者やボランティアとの交流を図り、日頃の安心な暮らしにつながる機会づくりとして、ひとり親世帯の居場所「ぺあちる」の開催をしています。

「ぺあちる」は、親子で遊べる場から子育てや仕事など、ひとり親としての悩みを分かち合い、情報交換できる機会になりセルフヘルプ的な広がりをもたらしています。さらに、さっちゃんまごころお福分けネットワークの際に、利用者に聞き取りを行うことで、ひとり親家庭が抱える「困りごと」の中で最も多くあげられた「経済的困窮」につながる就労・増収の壁に対し、社会環境及び孤立の課題が見えてきました。



そのため当事者を取り巻く社会の課題や必要なサポート体制構築に向けた研修会を行いました。受講者の中では既存の子ども食堂で活動をはじめたり、子ども食堂立ち上げに向けての動きが生まれています。さらには「子どもの送り出しができない」ことでの不登校の課題に朝の個別訪問による声掛け支援が実施されるなど、「知る」ことから「共感」することで具体的な行動へとつながっています。さらに、当事者自身の主体的な自立を地域住民全体で支える体制づくりができるよう、出会い・気づき・学び・実践を軸とし、ニーズキャッチから支援者育成研修の流れのある取り組みに努めていきます。



（「ぺあちる」：令和４年度は年間１１回開催で延べ４７名の参加であったのに対し、令和５年度は１２回開催で延べ１３１名参加）

## 【新規】共生の居場所づくりの推進

外出が少ない高齢者、障害者やひきこもり状態にある方、不登校などの方をはじめ、誰もが「居る」ことができ、また住民、地域福祉活動者など、多様な主体が出会い・まじわることで、一人ひとりの力が育まれる機会づくりを目指しています。そこで、神戸大学大学院と地域の連携により、子育て支援を核とし、多様な人たちが相互に関係を持ち、互いに学びあい助け合うコミュニティづくりを先進的に展開されている「のびやかスペースあーち」を職員が訪問し学び、シニア・ユースひろばで、“ごちゃまぜ”で“一人ひとりの力が発揮できる”場づくりに向けた取り組み検討を進めてきました。

検討を重ねるなかで、私たちがすすめる「共生の居場所」のイメージを共有しあい、次年度より

テーマ：【LETS(レッツ：Life・Easy・Together・Smile)】意味：暮らしのなかで、気楽に・誰かと・一緒に・笑顔になれる

取組みカテゴリ：①”Each Teach Learn” 学び合いの場づくり

②”Me・みんぐる” 出会いと交流の場づくり

③”レッツ Join” 参加の機会づくり

を事業の軸とし、シニア・ユースひろばを拠点とした「共生の居場所」づくりを進めます。

### (3)SOSが出しやすい地域づくり

#### 【強化】地域福祉フォーラムの開催

地域の福祉活動実践を多くの市民と共有することで取り組みの輪を広げ、困りごとを受け止め、支え合える地域福祉活動の促進を目的に地域福祉フォーラムを開催しました。

今年度は、第3次地域福祉推進計画策定委員長で関西学院大学人間福祉学部 教授 藤井博志氏によるファシリテートのもと、本庄地区で活動をはじめて11年になる生活支援ボランティア“まごの手本庄”さんに活動報告をしていただきました。

地域の人口減少が進む中“地域で暮らし続けたい”の想いを支える活動を試行錯誤し進めてきたことや、新型コロナウイルスによる社会全般が自粛を余儀なくされている期間においても“暮らしに必要”な活動として止まることなく続けてきた、その根底にある活動への想いが語られました。参加者からは、対象年齢を高齢者に限らず「地域で暮らす人」が困っているから「お手伝いする」ということや、担い手は住民だけでなく「地域にある福祉施設との協働も大きな地域の力」になることなど、「誰もが安心して暮らす」地域福祉の推進における原点と推進に取り組む仲間づくりについて考える機会となったとの声がありました。（開催：令和6年2月11日（日） 参加者130名）



#### 【新規】見守りフォーラムの開催（孤立を防ぐ見守り・つながりの推進）

少子高齢・人口減少が全国的な課題になる中、誰もが取り残されない“誰もが自分らしく 安心して暮らせる 共生のまちづくり”には、行政・事業者・住民がそれぞれの役割を発揮するだけでなく、多様な主体がつながり・寄り添い・支え合えることが大切となります。そのためには、人や社会資源が出会う機会や場（プラットフォーム）とつながり（ネットワーク）が重要とされています。そこで、地域で取り組まれている活動や場づくりの実践活動報告を通じて、「見守り」について考える機会とするとともに、日常の身近な地域で「つながり・みまもり・ささえあう」活動のさらなる展開が図られるきっかけづくりを目的に「見守りフォーラム」を開催しました。

報告では“男性が集い・つながり合う”きっかけとしてコミュニティ居酒屋活動を行う「オアシスやよい」と“小地域サロンを活用した安否確認や引きこもり防止”を行う志手原校区地域づくり協議会さんに登壇いただき、地域の活動に参加しにくい男性や若い世代も参加できる『つどい場』から『見守り合う』ことを意識した取り組みについてお話いただきました。報告を受けて、他地区から取り組みの視察をされたり、地域に招いて研修会を開かれるなど、地域の新たな層の参加と見守りの充実に向けた動きが高まりました。

（開催：令和5年9月23日（土） 参加者115名）



## 基本方針2 多様な力がつながり、協働する仕組みづくり

### 1. 多様な力と共感が交わるきっかけづくり

#### 多様な主体が出会い、つながるきっかけづくり

住民が抱える生きづらさ・困りごと、課題の解決・軽減に向けて分野、職種を問わず多様な機関や団体が集まり、情報交換や交流の機会を作ります。

- ◆ ボランティア活動者・市民活動者交流会の開催
- ◆ 法人（事業所）協働ミーティングの開催促進
- ◆ ほっとかへんネットワーカーの配置

#### 事業計画1

（1）成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

○保護司会や、国際交流協会等と新たなネットワークをつくり、連携会や研修機会を通じて専門職間のつながりを深め、また課題共有を図りました。

（2）次年度に向けて

地区の防災訓練に当事者が参加しやすい環境を整えるなど、連携会やネットワークを通じて、地域と専門職のつながりを構築します。

【新】重層的支援体制整備事業の実施にかかる「多機関協働支援会議」●

【新】三田市権利擁護・成年後見制度利用促進地域連携ネットワーク推進協議会

【新】高齢者外出支援策に関するあり方懇話会●

地域包括支援センター施設長会議・連絡会  
三田市要保護児童地域対策協議会（実務者会議・全体会）  
三田市立学校における医療的ケア運営協議会  
生涯現役ネットワーク会議●  
三田市人権共生社会推進委員会●

権利擁護実務者会議●

居宅介護支援事業所事業所加算管理者連携会議

【拡】子どもまんなかネット（子どもの孤立を防ぐ連絡会）●

※設立 R3 年 5 団体→R5 年 11 団体

障害者施設・団体連絡会  
ヘルパー事業所連絡会  
ふれあい活動推進協議会会長会

三田市社会福祉法人連絡協議会●

各地区法人（事業所）協働ミーティング●

市・社協・地域包括地域担当者連携会

SUNDA 訪問看護の会

～第3次地域福祉推進計画 民間福祉・団体ネットワークの促進支援関連～

【新】みちかいご（さんの福祉・介護の仕事魅力アップを目指すネットワーク）●

【新】司法と福祉の連携会（保護司会・神戸観察所）●

さんだ多文化ふくふくネットワーク（三田市国際交流協会と福祉の連携）●

行政

地域

社協が参画する  
ネットワーク会議  
※●は多様な人・  
職種が参画してい  
る会議  
※各種審議会、検  
討会、行政担当課  
のみの会議は除く

社協

専門機関

ふれあい活動推進協議会

まちづくり協議会（名称は地域により「郷づくり協議会」  
「地域づくり協議会」など様々…）

三田市民生委員児童委員協議会（市／地区単位）

生活支援グループ定例会

三田市ボランティア連絡会運営委員会

見守りネットワーク会議●

地域つながるミーティング（コープこうべ）

買い物支援連絡会（コープこうべ）

三田市人権を考える会●

【新】第3次地域福祉推進計画関連地域福祉推進研修実行委員会

三田市在宅医療介護連携推進会議

（市在宅医療・介護連携支援センター主催）

三田在宅医療福祉介護連携会

兵庫中央病院認知症疾患医療連携協議会

三田地域看護推進会議

さんだ在宅医療ネットワーク定例会

障害者生涯学習コンソーシアム

（神戸大学と県教育委員会共催）●

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会

ネットワーク訪看護丹波定例会

## 2. 力の循環を促進する「拠点と人」づくりの促進

### 人が集い交わる

#### 拠点の強化と、地域活動・ボランティア活動の促進

効率的・効果的に地域づくりを進めるために、様々な組織・団体がともに互いの強み・弱みを補完し合って、地域づくりが進められるよう支援します。

- ◆ 地域福祉支援室などの拠点機能強化
- ◆ 地縁型活動とテーマ型活動のつながりの場の開催

### 事業計画2

#### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

○さんちきれん〔三田市・社協（地域福祉支援室・ボランティア活動センター）・関西学院大学（ボランティア活動支援センター）で行う三田地域連携会〕への参加

関西学院大学との連携強化が進み、学生に向けた活動募集などの情報発信がしやすい状況になりました。また、ボランティアツアーや地域活動者との交流会などを通じ、地域やテーマ型の活動に所属する学生も出てきました。さらにシニア・ユースひろばを拠点とした学生・ボランティア活動者を中心とした「人が集い交わる」協働事業実施に向けての検討も始まりました。

△関西学院大学ボランティアツアー（大学と協働し、地域でのボランティア活動体験機会）の開催において、公共交通機関の規定で学生の乗降箇所が制限されていることから、活動地域も限定されています。学生の地域参加においては、交通の課題を検討する必要があります。

#### (2) 次年度に向けて

交通の課題は、さんちきれんだけでなく、受け入れを行う地域の中でも、学生の交通の課題に理解を図り、地域や各種団体の協力が仰げないかも含め検討を図っていきます。

## 3. つながりで築くケアの推進

### 事業計画3

#### ① 暮らしの安心が途切れない協働ケアの仕組みづくり

支援を必要とする方へのケアにあたって、公的サービスだけでなく、地域をはじめとする様々なつながりを持たせることによって継続した支援が展開されるよう、分野別のサービスや専門職と地域活動者等、あらゆる主体による、暮らしを支える協働ケアの仕組みづくりを推進します。

#### ② 個別支援から地域づくりにつながるケアの展開

年齢や制度の変化があっても継続的・総合的な、個別支援から地域づくりにつながるケアの展開を行います。

- ◆ 社協内ケアマネジャー連携会の開催
- ◆ 地区別チームケアの推進（職員の地域担当制の研究）

#### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

○同じ資格の専門職であっても、所属の違いや専門領域の異なりで壁が生じやすくなります。円滑な支援にむけて、横断型の連携会など行い、互いの専門性を認識する機会を設けたことで、ともに力が発揮される協働支援への理解が深まってきました。

#### (2) 次年度に向けて

専門職・地域など、みんなで支えあう協働ケアへの正しい理解に向けて、研修や実践で体感できる意識的な機会づくりなどを進めるとともに、モデルケースの実施に向けて取り組みます。

また、福祉サービス・制度のみで利用者を支える考え方にとらわれず、国が掲げる福祉施策の全体像と地域福祉に対する理解をすすめ様々な力を合わせたケアにつなげていきます。

## (1)多様な力と共感が交わるきっかけづくり

### 【新規】多分野活動者交流会

「福祉活動のボランティア」と「多様な分野の活動者」が協働することで地域づくりが促進されるよう出会いと力合わせのきっかけの場として「多分野活動者交流会」を実施しました。いままで交流の機会が少なかった他分野の団体がお互いの活動を知り、課題テーマの解決に向けて互いの力を合わせていく方法を検討し合う時間を通じ、今後の活動の新たな可能性や現在の課題を乗り越える糸口を見出すことにつながりました。

次年度もこのような機会を設け、さらに広く参加を募ることで、活動の幅と活動者の力が相乗的に高まることを目指します。



## (2)力の循環を促進する「拠点と人」づくりの促進

### 【強化】大学など教育機関コーディネート（さんちきれん）

若者世代の参加による地域づくりの促進に向けて、関西学院大学ヒューマン・サービス支援室（大学生ボランティアのサポート機関）と定例会をもち、三田における活動のきっかけや定着に向けた意見交換をしたり、協働事業の検討をしています。

そして定例の場でも出された案をもとに、学生コーディネーターとボランティア活動センター職員、地域福祉支援員が日頃の取り組みへと展開し、三田における地域活動やボランティア活動などを学生にPRする場を設けたり、学生が地域活動を体験する「ボランティアツアー」の実施につなげました。

これらの取り組みを重ねることで「三田を身近に感じるようになってきた」「顔見知りが増えて愛着が湧いてきた」などの声が学生から聞こえるようになっていきます。



## 【強化】地域活動者研修会の開催～新たなグループワーク“つながりカード”～

日頃の活動の中で、活動者が直面するテーマについて多様分野が同じテーマの解決に向けた協働を体感することができるよう、テーマ型ボランティア活動団体などの参加を呼びかけ、意見交換をする場を設けました。

また、三田独自の手法である“つながりカード”を用いて当事者へ寄り添うための協働や見守りについて語り合う研修は、地域単位でも「やってみたい!」と取り組まれています。さらに、三田市社協を模して市外でも活用されるなど広がりを見せています。



## 【強化】企業の社会貢献と地域活動のコーディネート

地域のニーズに企業の強みを生かした取り組みを働き掛けることで、相互に新たな発見と活力が育まれることを目指しサポートをしています。地域性を考慮し、農業を通じた多様な人の交流や活動者との出会いによる地域活動への新たな人の参加に向けて、ふれあい夏野菜マルシェを提案し、開催に向けた支援を行いました。開催を通し、地域の中で、企業と協働した地域づくりを進めていく意欲が高まっています。[広野地区 令和5年8月6日開催]



### (3)つながりで築くケアの推進

## 【新規】社協のトータルケアサポートについて

自分らしく安心できる在宅生活を支援するために、介護サービスセンターの行う事業（訪問介護・訪問看護・通所介護・生活介護・居宅介護）を単体で実施するだけではなく、法人内の様々な部署、機能が連携を図り支援していくことで利用者一人ひとりが主体となり、介護やサポートが必要となっても「自分らしい」暮らしを実現できるケアをトータルケアとして推進していきます。

今年度は、介護サービスセンター内の各事業の新規利用者の方が介護サービスセンター内の利用者であったケースから連携が図れるよう情報共有を行いました。

次年度は、さらに必要な関係機関や地域活動者等とも連携を行い、より地域での自立した生活を支援するためのつながりを広げるトータルケアサポート（総合的な支援）の展開を図っていきます。

【トータルケアサポートを推進するために今後実施していくこと】

- ・社協内ケアマネジャー連携会の開催（令和5年度～）
- ・事例研究への取り組み（研究から実践へ、独自サービス開発の検討）
- ・介護サービスセンター全体定例会による職員スキルアップ（基盤強化）

## 【強化】社協内ケアマネジャー連携会の開催

社協に在籍しているケアマネジャーが所属部署を超えて、ともに学ぶ機会として連携会を開催しました。日々の業務の中で、ケアマネジャーが抱える課題を共有し、地域課題として解決する取組や社協のケアマネジャーとしての資質向上を図りました。

次年度も継続して行います。

第1回：認知症に関する事例の共有や認知症初期集中支援チームの動き

第2回：「難病と訪問看護」講師：ココリハ訪問看護ステーション

第3回：「個別支援から地域福祉を理解する」

参加メンバー：三田市地域包括支援センター 5名

ウッディ地域包括支援センター 4名

中央居宅介護支援事業所 4名



# 基本方針 3 SOSをまるごと受け止め、支える体制づくり

## 1. まるごと受け止めみんなで支えるチームづくり(包括的相談支援体制の推進)

### 総合相談支援体制の構築

#### 事業計画 1

職員一人ひとりが参画する社協内の体制整備及び多機関との協働により総合相談体制の構築をすすめます。また、進捗管理の場、「個人」を支えるチームづくりとあわせて後方支援を行う基幹相談ネットワークやスーパーバイズ体制を専門機関・行政と協働し構築します。

- ◆ (仮称) まるごと受け止め支える体制づくり会議の運営
- ◆ 民間福祉・団体ネットワークの促進支援

例：さんだこどもまんなかネットワーク〔子ども食堂〕、  
さんだ多文化ふくふくネットワーク会議〔多文化共生分野〕、若年性認知症支援ネットワーク  
みちかいご〔社会福祉法人・NPO法人・行政による福祉・介護のしごと魅力アップ企画〕への参加など

- ◆ 分野別ネットワークの促進支援

〈例：地域包括支援センターによる生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員と協働した圏域版地域ケア会議の開催など〉

- ◆ 社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネットさんだ)・市と協働で(仮称)地域福祉推進研修会(専門職)の開催など

### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題

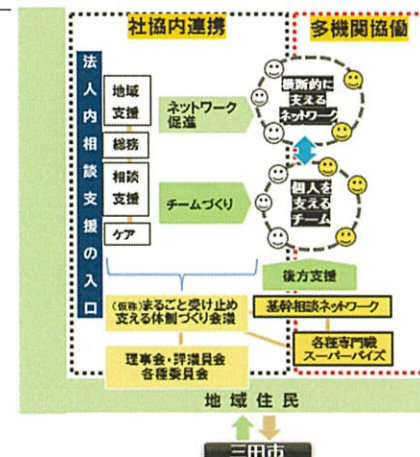
第3次地域福祉推進計画の策定議論において、『複雑多様化するニーズに対して、「ネットワーク」「チーム」で解決する』必要性を明記しました。

令和5年度は、“社協内連携”及び“三田市”との連携体制づくりに努めました。

- 後述の取り組み及び民間福祉・団体ネットワークの促進支援や地域福祉推進研修会を通じた総合相談体制の土台となる連携の場づくりや基幹／市相談機関など関係職員間のネットワーク構築を行いました。
- △ 急速な高齢化の進展、物価高騰、新型コロナ関連貸付関連事業が償還時期を迎える状況の中、支援ニーズの複雑化・困難化、1つの家庭に様々な生きづらさを抱える傾向は継続しています。そのようなケース支援に必要なサービスの充実・開発やネットワーク構築が求められます。

### (2) 次年度に向けて

個別支援で把握・届けられた声を、抱え込まず地域・法人単位での検討(地域啓発・仕組みづくり)や他機関協働を通して解決につなげる体制(「まるごと受け止め支える体制づくり」)を定着させます。また体制の評価方法について検討を進めます。併せて市重層的支援体制構築等との連携を継続します。



## 2. 権利擁護支援体制の促進

### 権利擁護支援体制の構築支援

#### 事業計画2

三田市権利擁護・成年後見支援センター、三田市生活安心サポートセンターの一体的な運営を通して、狭義の権利擁護「権利侵害や消費者被害からの救済」だけでなく、広義の権利擁護「一人ひとりが権利を活かし、自分らしく安心して暮らせるサポート」を包括的支援体制と連動させ、推進します。

- ◆（仮称）権利擁護支援ネットワーク会議の開催
- ◆ 権利擁護サポーター養成、市民後見人活動への仕組みづくり
- ◆ 権利擁護実務者会議の開催

|                                         |     |           |
|-----------------------------------------|-----|-----------|
| 権利擁護・成年後見支援センター運営事業<br>／ 生活困窮者自立支援事業 予算 |     | 32,073 千円 |
| 財源                                      | 受託金 | 29,955 千円 |

#### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題

- 権利擁護支援体制について市権利擁護関連事業担当者と調整し、体制構築の初期段階からの連携を行いました。
- 権利擁護実務者会議の継続開催を通じた、分野横断的な専門職間のネットワーク・チーム構築及び抱え込まない体制づくりを行いました。
- △ 支援ニーズの複雑化・困難化、1つの家庭に様々な生きづらさを抱えるケース支援に必要なサービスの充実・開発やネットワーク構築が求められます。

#### (2) 次年度に向けて

権利擁護・成年後見支援センターが、国第二期成年後見制度利用促進基本計画に基づく中核機関としての位置づけ（受託）となったことをふまえ、成年後見制度利用促進にとどまらない権利擁護支援体制の構築を市・関係団体・機関と協働して取り組みます。

### (1) まるごと受け止めみんなで支えるチームづくり(包括的相談支援体制の推進)

#### 【強化】総合相談支援体制の構築

各課選出による「分野横断でまるごと受け止め支えるチーム」を立ち上げ、右図「社協がすすめる総合相談支援体制イメージ」の実現に向けて、ミーティング・ツール開発・先進地へのWEB視察など検討を進めました。

試行実施を継続し、「気づく」「受け止める」「解決をささえる」体制の定着を進めます。

#### 当事者の例(家族含む)

高齢者（認知症、若年性認知症の方を含む）、障害児・者（手帳有無・診断の確定を問わない）、子ども・子育て中の方  
ひきこもり状態にある方、外国にルーツのある方、生活困窮の状況にある方、ヤングケアラー、ダブルケア、8050世帯、介護を理由に離職した方 など

#### 総務課 総務係

他課選出を推進する。他課に所属した社会福祉士人としての活躍機会に向けて、持続可能な継続的支援、人材確保・育成・広域・協働に向けて、取り組むの支援を図っています。

主な業務内容  
・社会福祉・児童福祉  
・生活福祉  
・福祉事業（福祉サービス）  
・広域連携（社会福祉、福祉の連携、社会福祉士、福祉士として就業）  
・生活困窮者自立支援センター開設支援  
（ふれあい福祉バス助成事業、福祉市民課支援）



田中隆雄 渡辺真 鈴木美希 山本美穂子 川口佳代子 岡野和代 森岡美希

内部連携に向けた顔が見えるツール

## 【強化】民間福祉・団体ネットワークの促進支援

### ① さんだ多文化ふくふくネットワーク ～外国にルーツのある方の暮らしを支える～

様々な理由で三田に暮らされている外国にルーツのある方の生きづらさが、新型コロナ特例貸付で明らかになったことをきっかけに、昨年4月から月1回三田市国際交流協会との「さんだ多文化ふくふくネットワーク会議」を開催しています。

今後も個人を支える・支援の存在を伝える仕組みづくりの開発を行っていきます。

紹介冊子も発行されました⇒



### ② 「みちかいご（身近+介護）」～さんだの福祉・介護のしごとをつたえる～

市内社会福祉法人・NPO法人有志により立ち上げられ、SNSの運営やイベントの実施を行っています。

当会で、市内社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットさんだ）の事務局も担っています。

若い世代も当日スタッフとして呼びかけ、介護・福祉フェスタ開催！（おしごとマルシェ同時開催）⇒



## 【強化】分野別ネットワークの促進支援 ～見守りをテーマにした圏域版地域ケア会議の開催～

ウッディタウン市民センターでは、高齢者支援を行うウッディ地域包括支援センターと地域づくり支援を行う地域福祉支援員が業務を行っています。ゆりのき台校区では、「認知症の方が道に迷われ、自宅に戻れない時にどんな対応をすればよかったのか」という民生委員・児童委員の相談から、定例会の中で「見守り」についての勉強会を開催しました。そこでは、「見守り・つながりづくり」の説明を行い、様々な意見とともに「つながり方、つながり方がよくわかった」等の感想をいただきました。次年度も、いきいき安心プラン21（第9期三田市高齢者保健福祉計画）に基づき積極的に推進します。



## 【新規】地域福祉推進研修会（専門職）の開催

包括的支援体制づくりの一環として、右メンバーによる実行委員会形式で、企画を進め、12月15日（金）には「悩みごとほっとかせない 分野を越えたつながり体感 120分」をテーマに、高齢者／障害者／子育てなど専門職間の支援対象を越えた連携の場づくりの大切さを共有し、顔が見える・連携を体感する場づくりを地域福祉推進研修として開催しました（参加者：60名）

次年度もアンケート内容をふまえ開催予定です。



| 区分                               | 実行委員所属・氏名                       |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ほっとかへんネットさんだ<br>（三田市社会福祉法人連絡協議会） | （高齢）社会福祉法人 枚方療育園 三田泰寿荘 主任 木川和彦様 |
|                                  | （障害）社会福祉法人 風 三田わくわく村 参与 長田 武彦様  |
|                                  | （児童）社会福祉法人 あかしあ 光の子保育園 園長 岡田敦子様 |
| 第3次地域福祉推進計画策<br>定委員              | 社会福祉法人 三翠会 統括施設長 前川 嘉彦様         |
| 三田市                              | 地域福祉課孤独・孤立対策担当                  |
| 三田市社会福祉協議会                       | 大村（総合相談支援センター課長）                |
|                                  | 中沢（権利擁護・成年後見支援センター係長）           |

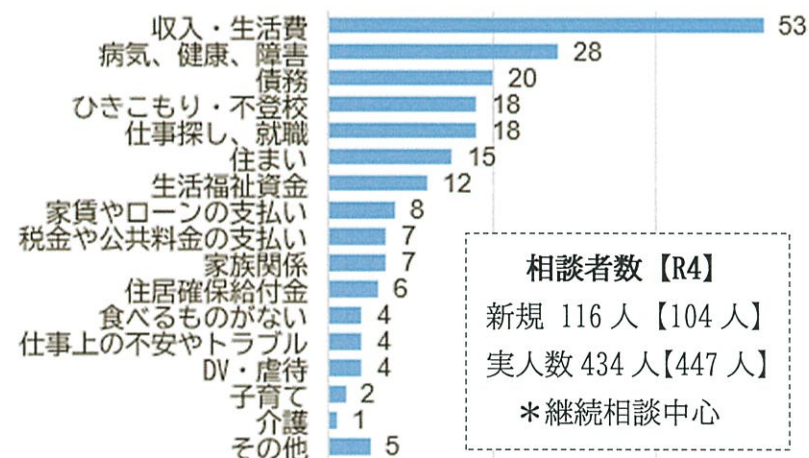
## (2) 権利擁護支援体制の促進

### ● 市公的相談窓口の運営

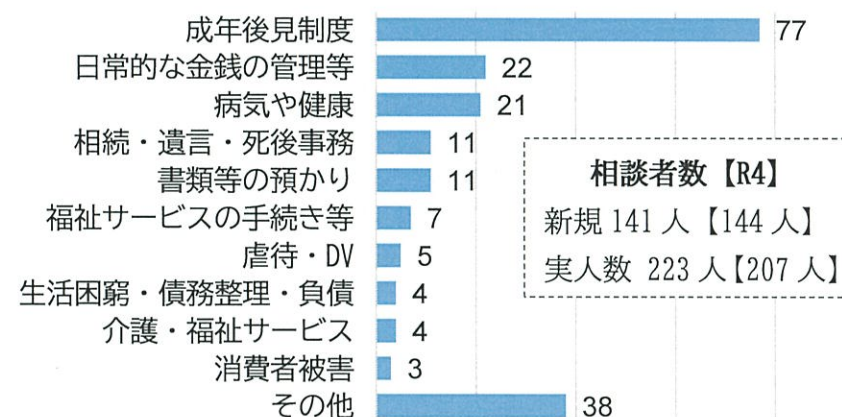
#### ① 三田市生活安心サポートセンター・三田市権利擁護・成年後見支援センターの運営

生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業及び住居確保給付支給などを「生活安心サポートセンター」、判断能力の低下や、人・地域との関わりが難しいなどの生きづらさを抱える人が「自分らしく安心した生活ができる権利」を護るサポートを「権利擁護・成年後見支援センター（R5.11～中核機関）」として、関係機関と連携しながら支援しました。

三田市生活安心サポートセンターの新規相談の内容



三田市権利擁護・成年後見支援センターの新規相談の内容



#### 権利擁護専門相談会

将来に向けた成年後見制度利用の検討や遺言・債務整理など法律に関する権利擁護ニーズ、支援者である専門職からの相談にも応じました。

開催日数:13日

※ 第1木曜日:弁護士、社会福祉士等／第3木曜日:司法書士、社会福祉士等  
相談者数:17名（内訳:高齢者:11名 障害者:4名 その他:2名）

#### 日常生活自立支援事業

判断能力が不十分な人々の自己決定を支援し自立した地域生活を送ることができるよう支援を行いました。

◆利用者数…18名（認知症高齢者…11名 知的障害者…4名  
精神障害者…3名） ※うち、新規2名、解約3名

◆訪問回数…延べ361回

## ② 三田市地域包括支援センター（基幹型／地域型（三田・三輪南、ウッディタウン・カルチャータウン）

高齢者や家族の相談を受け止め、訪問活動等による実態把握を行い、必要なサービスや地域とのつながりづくり支援を行う地域型2か所の運営（下表）、市内全6か所の地域型をサポートする基幹型の運営（相談件数 874件：R4 966件）を行っています。＊ R5～集計様式一部変更

| 地域型         | 三田・三輪南 |       | ウッディ・カルチャー |       |
|-------------|--------|-------|------------|-------|
|             | R5     | R4    | R5         | R4    |
| 相談実件数       | 1,857  | 1,183 | 2,168      | 1,624 |
| 相談延べ件数      | 2,755  | 2,397 | 4,000      | 2,840 |
| 一般高齢者       | 737    | 432   | 609        | 294   |
| 虚弱          | 553    | 423   | 872        | 693   |
| 要支援         | 741    | 727   | 1,292      | 1,005 |
| 要介護         | 675    | 815   | 1,173      | 848   |
| その他         | 49     | —     | 54         | —     |
| 合計          | 2,755  | 2,397 | 4,000      | 2,840 |
| 介護保険制度      | 1,515  | 1,540 | 2,619      | 2,132 |
| 保健福祉サービス    | 203    | 324   | 196        | 206   |
| 医療・疾患・投薬    | 432    | 550   | 711        | 564   |
| 生活全般        | 1,324  | 1,020 | 1,551      | 1,026 |
| 介護          | 241    | 449   | 493        | 280   |
| 認知症         | 582    | 775   | 1,102      | 440   |
| 安否確認        | 216    | 143   | 96         | 41    |
| インフォーマルサービス | 42     | 64    | 63         | 72    |
| その他         | 520    | 222   | 365        | 211   |
| 虐待          | 79     | 77    | 3          | 31    |
| 成年後見        | 108    | 28    | 15         | 29    |
| 消費者被害       | 13     | 4     | 5          | 10    |
| その他権利擁護     | 67     | 72    | 94         | 65    |
| 介護離職        | 1      | —     | 2          | —     |
| 合計          | 5,343  | 5,268 | 7,315      | 5,107 |

### 認知症関連事業 ＊キャラバンメイト・地域型認知症地域支援推進員と随時連携

- ・もの忘れ相談(68件 区・自治会回覧協力あり)
- ・認知症介護者交流会(12回 69名)
- ・タッチで脳の健康チェック:右写真  
(拠点+出張:13回 188名)
- ・市民向け健康講座  
「知る 見る 聞く認知症」  
延べ283名参加
- ・若年性認知症啓発  
オレンジ・ランプ特別上映会  
156名参加
- ・認知症啓発展示  
(市内公共施設・地域拠点10カ所+図書館3か所:下写真)
- ・オレンジライン(登録者数129名)



- ・若年性認知症多職種連携会開催  
(認知症疾患医療センター連携)

＊ 認知症地域支援推進員連絡会(4回)  
基幹型認知症地域支援推進員相談件数 477件



### フレイル予防教室

健康で自分らしい生活を送るために、専門職・団体と連携し、地域活動の場への講師派遣を行いました。  
(団体数 52団体 119回実施 延べ受講者 1,905名) ＊R4 70回 970名  
また個人の方を対象とした「みんなのフレイル予防教室も開催  
(全2回 延べ123名参加)



## 【強化】権利擁護実務者会議

相談のプラットフォームとして、協働実践の推進につながることを目指して、実際に抱える支援困難ケースについて様々な支援機関・人（医療、司法、保健、福祉、行政、その他あらゆる分野）が、解決に向けての相談・協議を行う会議を開催しました。

◇開催日時 毎月第4木曜日14時～16時（5月と8月は18時～20時）

◇参加者 延べ182名（令和4年度 163名）

参加機関・事業所：公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部、兵庫県司法書士会  
NPO法人あすなろ、相談支援事業所ねくすと、ケアマネジメントサンサリテ三田、  
市障害者総合相談窓口きいてネット、三田福祉の里相談支援センター、さんすい園居宅介護支援事業所  
訪問看護ステーションそのぎ、三田市教育委員会あすなろ教室、市立長坂中学校、市地域包括支援センター  
藍地域包括支援センター、ウッディ地域包括支援センター、広野・本庄地域包括支援センター  
障害者生活支援センター、市暮らしの安心課、市子ども家庭課、市地域福祉課、市いきいき高齢者支援課  
市障害福祉課、市人権共生推進課、社会福祉協議会（地域福祉課、総合相談支援センター）  
市生活安心サポートセンター（延べ182名）（順不同）



## 基本方針 4 地域福祉を進める基盤づくり

## 1. 社協の機能強化

### ①三田の福祉と社協活動を伝える

広報ツールを充実

「困った時には社協に相談」、「暮らしやすいまちにはあなたの力が必要」をコンセプトに、多様なニーズに応じた情報の発信に取り組みます

- ◆ 情報を届けたい対象から「共感」を得られることにこだわった情報発信
- ◆ 出張ふくし教室等のメニュー充実により「学び」を通した情報発信
- ◆ 社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネットさんだ」等と協働する情報発信
- ◆ SNS (Facebook、Instagram、LINE) の特性に応じた情報発信

運営費用

|               |            |               |              |             |
|---------------|------------|---------------|--------------|-------------|
| 広報・啓発<br>関連事業 |            | ホームページ<br>の運用 | さんだ<br>社協だより | 出張ふくし<br>教室 |
|               |            | 554,030 円     | 4,842,515 円  | 17,048 円    |
| 財<br>源        | 社協会費       | 554,030 円     | 4,776,833 円  | 17,048 円    |
|               | 積立資産<br>取崩 |               | 65,682 円     |             |

## 事業計画1

【(1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）】

○善意銀行事業「修学旅行お小遣い助成」では寄付の目的を明らかにしたことで、共感をよび新聞、ネットニュース、テレビ報道など、多様な媒体を通じて市内外から多くの反響がありました。当事者の声が集まる機能と、その声を社会に届ける効果的なツールによって、メッセージ性の高い事業を展開することができました。

○福祉・介護人材の発掘を目的に、市内８つのＮＰＯ・社会福祉法人が協働する「みちかいご(身近+介護)」では、「介護・福祉フェスタ&おしごとマルシェ」、Facebook、Instagramによる「日めくりみちかいご通信」など、福祉・介護の魅力発信強化を図っています。目的を同じくする法人間の有益な関係も大きな魅力のひとつとなってきました。

○社協特別会費では、協力の呼びかけとともに、大口の協力企業・法人等へ、「社協のあらまし」広告掲載スペースの提供を行いました。今後は、協力企業・法人の掲載拡大を図ります。同時に「社協のあらまし」の付加価値を高め、社協会費の啓発とともに、広報力の強化を図ります。

(2) 次年度に向けて

目的寄付として「さっちゃんのまごころお福分けネットワーク」をはじめ、共感を呼ぶ事業に特化した寄付の形を推進していく一方で、善意銀行一般預託を財源とする、善意銀行事業や、共同募金配分金事業についても、同じく共感、協力が得られる事業の充実と、それを伝える広報、また預託者への報告のあり方について、充実を図ります。

令和6年度社協のあらまし(最終ページ) ▶

[illegible]

## ② 地域福祉の推進を担う社協職員の育成 (職員の開発的思考を高める)

### 事業計画2

人々の地域での暮らしを支え、自ら支援を求めることが困難な方々に向き合い、地域と協働しながら課題を解決に導くことのできる社協職員の育成に取り組みます。

- ◆ 地域福祉推進計画課題研究会（管理・監督職対象）の開催
- ◆ 地域活動団体・事業所での外部実習実施準備
- ◆ 社協職員育成のための研修体系構築

### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

- 計画の推進にあたり、正規・嘱託職員を対象に研修を行い、各業務と計画との連動を共有しました。
- 組織内に開発性や研究実践を醸成していく機会として、近畿地域福祉学会兵庫大会にて、「第3次地域福祉推進計画の策定を三田市社協の『主体化計画』とした取り組み」と題した実践活動報告を行いました。

### (2) 次年度に向けて

社協の目指すべき職員像（各階層や経験年数ごとに求められる能力）を明らかにし、具体的な実践行動の形で整理します。

## ③ 安定した財源確保、持続可能な組織経営

### 事業計画3

社協が地域福祉の推進役として、積極的な事業運営を図っていくために、持続可能な組織経営に向けて取り組みます。

- ◆ 「第3次財政計画」の進捗管理・評価
- ◆ 地域福祉財源（社協会費・善意銀行寄付金・共同募金配分金）の安定確保に向けて、財源による事業の啓発強化並びに、財源と実施事業のルール設定
- ◆ 「介護保険・障害福祉サービス等事業経営計画」の評価、あり方検討

### 《三田市社協が行う介護サービス》

「あなたの笑顔にとことん ～「こう生きたい」に寄り添い、暮らしを支えます～」をモットーに、以下のサービスを実施します。

- 高齢者ホームヘルプサービス      ○高齢者デイサービス
- 障害者ホームヘルプサービス
- 居宅介護支援（ケアマネジャー）      ○訪問看護サービス
- 身体障害者デイサービス（市受託事業）

### (1) 成果と課題 ※○：成果、△課題（以下同様）

- 社協機能の強化に向けて、経営計画の策定に取り組みました。策定作業と同時に、法人理念を制定し、「5年後のあるべき姿」について職員研修を実施しました。経営視点において、社協らしさと収益性の連動する事業展開を検討しながら、マネジメントメンバーの意識改革を図りました。
- 地域福祉財源の確保に向けて3つの財源の違いを明らかにし、それぞれの目的に応じた広報・啓発・協力依頼を行いました。今後更に、理解・協力が得られ、実績額の向上につながることを目指します。
- △介護サービスセンターはスタッフの確保と効果的なサービス提供体制の見直しを図る必要があります。

### (2) 次年度に向けて

経営計画の遂行においては、進捗管理・評価を行います。また、介護サービスセンター利用者の地域生活を支える、地域とのつながりづくりを含めた、社協の『トータルケアサポート』を展開し、サービスの利用拡大と提供体制を整え、法人全体で収益性の向上を図ります。

## (1)社会福祉協議会の機能強化

### 【新規】地域福祉の推進を担う職員の育成 (職員の開発的思考を醸成)

#### 県内の新人社協職員交流会（新任部会長を当会で担当）

～県内の社協職員（仲間）とつながり、継続した連携がとれるきっかけづくりにしよう！～ 参加者：新任職員等5名

他市社協職員との交流機会が刺激となり、業務のモチベーションアップや積極性・開発性の醸成、また参加職員を通じて職場全体への還元をねらいとしました。



#### コミュニティワーク研修

人口減少や単身高齢化が進む中、地域共生社会の実現は、支援を要する人を取り巻く関係性も含め、まるごとの視点で支援展開を図ることが求められています。

現在国では地域福祉を軸に制度横断・制度協働型の福祉施策として「重層的支援体制整備事業」が進められています。三田市においては令和7年度からの本格実施に向け移行準備事業を開始し、当会は“地域づくり支援”を令和5年度から受託しています。

重層的支援体制整備事業の取り組みで重要とされる「地域福祉」は社協の本幹なるものであり、全職員のベースとなるものです。

当会が取り組む個別支援は、地域福祉の視点が大切にされること、また地域づくり支援は従前の取り組みを引継ぎながらも、さらに地域主体の地域づくりが促進されることを目指します。コミュニティワーク実践を積み重ねる地域福祉支援員を中心に、社協職員として地域福祉に対する専門的な知識、技術の向上を目的に、研修および事前事後学習に取り組みました。

講師：関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井博志先生



|   | 実施日      | 内 容                                                                |
|---|----------|--------------------------------------------------------------------|
| 1 | 12/27（水） | 地域生活支援演習：個別支援と地域支援の全体像：オープン研修                                      |
| 2 | 1/26（金）  | 講義「コミュニティワーク概論」<br>演習「プロセスチャート作成」<br>「インシデント事例作成とコミュニティワークの事例化」    |
| 3 | 2/22（木）  | 演習「インシデント事例演習①」「インシデント事例演習②」<br>講義「コミュニティワーク記録について」                |
| 4 | 3/15（金）  | 講義「地域診断とネットワーキングと社会資源開発」<br>演習「地域診断から担当地域の支援構想を考える」<br>（第3次計画との関連） |

## 【強化】地域福祉財源の確保にむけて ～社協会費、善意銀行、共同募金、それぞれの目的を明らかに～

地域福祉財源の確保に向けて、それぞれの違いを明らかに、それぞれの目的に対する理解と協力が得られるよう、対象別啓発チラシの作成をはじめ、区・自治会等各種団体への働きかけを行いました。

|          | ① 社協会費                                                                                                                                                                                                         | ② 善意銀行                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ③ 共同募金                                                                                                                                                                                                     |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テーマ      | 『困った時には社協に相談』<br>『暮らしやすいまちづくりにはあなたの力が必要』                                                                                                                                                                       | 善意銀行は善意の寄付を預り、必要とされている方々や福祉事業へ払い出す「善意の橋渡し」の仕組みです。                                                                                                                                                                                                                                                     | 三田のまちをよくするしくみ<br>全国共通テーマ：「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」                                                                                                                                                     |
| 具体的な使途   | <div>社協の広報・啓発活動に</div> <div>◇「さんだ社協だより」〈Good身近なふくしの情報お届け便</div> <div>◇ホームページの運営</div> <div>◇三田市社会福祉大会</div> <div>◇出張ふくし教室</div> <div>◇SNS（Facebook・LINE・Instagram）</div> <div>法人運営に</div> <div>◇部会・委員会活動</div> | <div>生活困窮世帯を支える取り組み</div> <div>◇さんだこどもまんなかネット</div> <div>◇さっちゃんのまごころお福分けネットワーク</div> <div>◇子どもの学習支援の場</div> <div>ひとり親世帯つながり事業</div> <div>◇気軽な居場所「ぺあちる」◇支援団体からの招待事業</div> <div>当事者活動の推進</div> <div>◇セルフヘルプグループ情報誌「さんだささえあいネット」の発行</div> <div>共生社会推進事業</div> <div>災害見舞金</div> <div>◇火災に見舞われた世帯へ支給</div> | <div>身近な地域のつながり・見守り・支え合いの活動に</div> <div>◇高齢者福祉活動 高齢者活動団体への助成</div> <div>◇福祉育成・援助活動事業</div> <div>◇孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業</div> <div>◇ボランティア振興（ボランティアまつり等啓発事業）</div> <div>◇歳末たすけあい事業 歳末訪問活動（民生委員児童委員協議会と共催）</div> |
| 新たな財源の創出 | <div>「社協のあらまし」へ</div> <div>広告スペースの提供</div> <div>対象：社協会費特別会費</div> <div>大口寄付者</div> <div>（5口25,000円以上）</div> <div>2事業者 5万円</div>                                                                                | <div>目的寄付の促進</div> <div>～さっちゃんのまごころお福分けネットワーク～</div> <div>「修学旅行お小遣い助成事業」に特化した寄付活動を新たに実施</div> <div>115件 1,439,759円（目標額40万円）</div>                                                                                                                                                                     | <div>事業協賛金の協力呼びかけ</div> <div>歳末助け合い事業</div> <div>「ほのぼのカレンダー」へ</div> <div>協力：社会福祉法人連絡協議会</div> <div>（ほっとかへんネットさんだ）</div> <div>14法人 協賛金総額 14万円</div>                                                         |
|          | <div>ファンドレイジング</div> <div>『身寄りのない人の支援ネットワークのあり方・終活プログラムメニュー研究』について</div> <div>中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」2024年度新規事業助成に応募（応募総額：3か年829万円）⇒不採択</div>                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                            |

## 【強化】持続可能な組織経営

### ～介護保険・障害福祉サービスの進捗～

地域福祉推進に向けた積極的な事業展開が図れるよう、継続かつ安定した経営を担保するための資金として、介護保険・障害福祉サービスの収益を積み立てています。

訪問看護、高齢者デイサービス、居宅介護支援においては職員に欠員が生じた他、職員の高齢化が、各事業所にみられます。事業運営に必要不可欠な人材の確保・定着に向けて取り組みます。

| サービス名     | 令和4年度      |                     | 令和5年度      |                     |
|-----------|------------|---------------------|------------|---------------------|
|           | 法人繰入予算     | 決算<br>(当期資金収支差額相当額) | 法人繰入予算     | 決算<br>(当期資金収支差額相当額) |
| 訪問看護      | 1,000,000  | △814,642            | 2,000      | 3,164,390           |
| 高齢者ホームヘルプ | 6,067,000  | 9,799,504           | 6,161,000  | 9,686,733           |
| 障害者ホームヘルプ | 11,554,000 | 11,535,677          | 11,090,000 | 8,530,459           |
| 高齢者デイサービス | 1,251,000  | △3,731,519          | 3,020,000  | 1,395,336           |
| 居宅介護支援    | 161,000    | △1,858,476          | 82,000     | △2,067,821          |
| 合 計       | 20,033,000 | 14,930,544          | 20,355,000 | 22,777,218          |

### ～喫茶ポポロの運営～ 売り上げの多くを占めるポポロランチの売上数増加を目指し、取り組みました。

・毎日のランチの写真をSNS（FACEBOOK、Instagram）に掲載する「ポポロチャレンジ」 ・ランチのテイクアウト ・ランチの価格見直し  
結果、1日あたりのランチ売上数は30%以上増加しました。（令和4年度1日平均45食、令和5年度60食）

## (2)計画推進の仕組みづくり

### 【新規】地域福祉協働推進ネットワークの開催 令和6年3月4日（月）15：30～17：00 多目的ホール

社会変化が著しく地域に潜む課題が複雑多様化する中、第3次地域福祉推進計画の福祉目標実現には、多様な主体の協働や柔軟な取り組みによる課題解決など、力の相互作用で効果的かつ円滑な実践展開が重要です。

そのため、計画の実行性を高めていくことを目指し、多様な主体の力が結集できるプラットフォーム（＝交わる機会、基盤、土台）として「地域福祉協働推進ネットワーク」を実施しました。まず「どのような場が参加しやすいか」「ネットワークを活用してどんなことをしたいか」「協働に大切なことは」など、多様な主体が結集し協働することで、最大限に力が発揮できるプラットフォームの構築に向けたベースを考える場となりました。

参加者 関西学院大学 人間福祉学部 教授 藤井博志先生（計画策定委員長）

計画策定委員 10名

社協正副会長 社協管理・監督職、地域福祉支援員等 18名 （全29名）

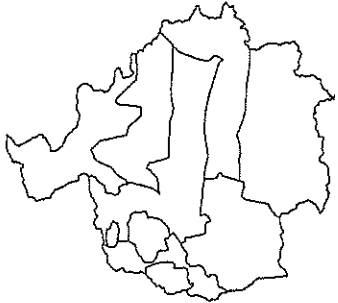
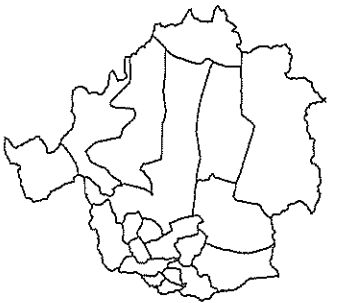
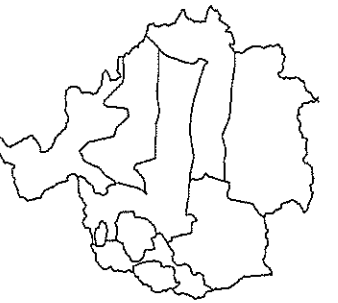
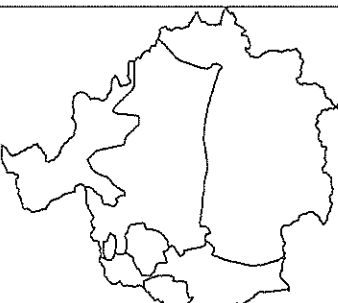
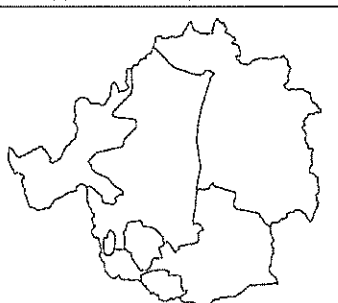
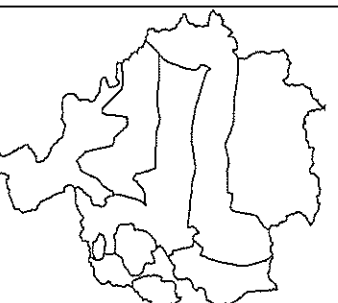


### (3)住民主体の活動圏域の形成

#### 【新規】圏域の違いによる状況の分析と、各種組織、団体の活動エリアに対する支援展開

計画策定の中で、それぞれ7つの組織や、公的機関としての支援対象エリアに異なりがあることが明らかとなりました。それに関連して、住民の集まりや交流拠点、活動範囲にも異なりが生じており、圏域の異なりは住民の力が合わさりにくい状況をつくっています。

ふれあい活動推進協議会会長会では、圏域の違いにかかる上述の課題共有が図られています。また社協においては、それぞれの地域のサロン活動や、地域活動拠点、要支援者等の分布など、把握している地域のデータをマッピングし、現状を視覚的に明らかとしていくための準備を進めました。

| ① 区・自治会連合組織<br>(10 圏域)                                                              | ②小学校区≒まちづくり組織<br>(20 圏域)                                                             | ③ふれあい活動推進協議会<br>(9 圏域)                                                                | ④民生委員児童委員協議会<br>(8 圏域)                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|    |    |    |  |
| ⑤日常生活圏域 (6 圏域)                                                                      | ⑥地域福祉支援室（地域福祉支援員）(6 圏域)                                                              | ⑦三田市地域担当職員の圏域<br>(9 圏域)                                                               |                                                                                     |
|  |  |  |                                                                                     |